

品川区民芸術祭 2018 の開催について

1. 目 的 区民による日頃の文化芸術活動を地域の賑わいにつなげ、区民の誰もが気軽に参加・鑑賞できるイベントとして、また、質の高い「文化芸術」に触れ親しむ機会として開催する。
2. 期 間 平成30年9月9日（日）～11月25日（日）
3. 主 催 品川区・公益財団法人品川文化振興事業団
4. 実施主体 品川区民芸術祭実行委員会
5. 事業概要

（1）コンサート

イベント名	開催日	会場
Dream Stage 輝け！しながわジェンヌ プロと区民が繰り広げる夢のステージ！ 【一部】宝塚 OG と公募区民によるレビューショー 【二部】高汐巴と宝塚 OG による 華麗なる「イン・ザ・ニューヨーク」	9/23(日祝)	きゅりあん
ティーンズコンサート ・区内の小・中学生、高校生、大学生、社会人による吹奏楽・合唱等の発表、合同演奏	10/14(日)	きゅりあん

（2）美術展

イベント名	開催日	会場
品川アーティスト展2018	9/15(土)・16(日)	きゅりあん
林アメリー2018・アッサンブラージュ秋の色	10/12(金)～11/7(水)	〇美術館
アール・ブリュット展 in 荏原	11/7(水)～15(木)	スクエア荏原
品川区民作品展	11/7(水)～11(日)	スクエア荏原
品川アーティスト7人展	11/9(金)～11(日)	スクエア荏原
障害者作品展	11/22(木)～28(水)	品川区役所

（3）団体・サークル活動の発表

イベント名	開催日	会場
芸能 花舞台(日本舞踊・新舞踊など)	9/9(日)	きゅりあん
ライブサーカス(バンド・ゴスペルなど)	9/22(土)	五反田文化センター
ダンスフェスティバル(高校生以上によるダンス)	10/8(月祝)	きゅりあん
心あったかコンサート(クラシック・声楽など)	11/4(日)	スクエア荏原

イベント名	開催日	会場
邦楽の調べ(箏・尺八・三味線など)	11/17(土)	スクエア荏原
子どもフェスティバル(中学生以下によるダンス)	11/25(日)	きゅりあん

(4) 芸術祭期間中に実施される関連事業

①区主催

イベント名	開催日	会場
組曲「しながわ物語」演奏会	9/2(日)	きゅりあん
品川薪能	10/30(火)	文庫の森 (雨天ときゅりあん)
UNITE HEART FESTIVAL	11/10(土)	スクエア荏原

②各団体と区の共催

イベント名	開催日	会場
区民のいけばな展	10/20(土)・21(日)	きゅりあん
品川区民 秋のコンサート	11/10(土)	きゅりあん
品川区合唱祭	11/18(日)	きゅりあん

③(公財)品川文化振興事業団主催

イベント名	開催日	会場
いにしえのおと あしたへみやび	9/15(土)	スクエア荏原
ホットジェネレーション第 37 回オリジナルミュージカル 「Dream again」	9/16(日)	きゅりあん
スクエア荏原もみじ寄席	10/6(土)	スクエア荏原
フルートフェスタ ♪in しながわ	10/21(日)	スクエア荏原
野田あすか ピアノ・リサイタル	11/10(土)	スクエア荏原
杉山公章の歌声コンサート in スクエア荏原	11/24(土)	スクエア荏原

(5) 協賛事業

- ・浮世絵をよみとくトークイベント「江戸美人のよそおい」【ポーラ文化研究所】
- ・第 31 回 2018 しながわ美術家協会展【しながわ美術家協会】
- ・リー・キット「僕らはもっと繊細だった。」【原美術館】
- ・「久米邦武と旧久米邸『百科の人』の仕事とくらし展」【久米美術館】
- ・GOTENYAMA ART&TECHNOLOGY WEEK 2018【御殿山エリアマネジメント実行委員会】
- ・五感で楽しむ音楽会～LIVE TOGETHER CONCERT～【テレビ朝日福祉文化事業団】

6. 予 算 32,209 千円 (事業負担金、会場借上、舞台設営等)

7. 広 報

区広報 8/21 号・9/11 号、「インフォ Curia」7/11 号・9/11 号の新聞折込、区および品川文化振興事業団ホームページ、CATV、品川区民芸術祭公式ツイッターで周知

障害者スポーツチャレンジデーの開催について

1. 目 的

- (1)障害のある人もない人も一緒に楽しむことができるスポーツイベントを通して、障害のある人とない人の交流の場の創出、障害者スポーツの普及を図る。
- (2)「ふくしまつり 2018」と同時に開催することにより、障害者のスポーツに対する関心を高める。

2. 日 時

平成30年9月8日(土) 午前10時～午後3時

※「ふくしまつり 2018」と同時開催

3. 場 所

しながわ中央公園 多目的広場 (品川区西品川1-27・28)

4. 内 容

- (1)車いすテニスアスリートのエキシビジョンマッチ観戦
- (2)障害者スポーツ・レクリエーション体験
(車いすテニス、車いすバスケットボール、ボッチャ、ゴールボール、フライングディスク等)
- (3)スタンプラリー

5. 予算額

6,754千円

6. 周 知

広報しながわ8月21日号、区ホームページ、チラシ



障害のある人もない人も
一緒に楽しもう!

みんな集まれ! ふくしまつり2018 & 障害者スポーツ チャレンジデー

2018 9.8 (土)

ちゅうおう どう えん
しながわ中央公園 午前10時～午後3時
(品川区役所前)



GUEST

齋田 悟司さん
車いすテニスプレイヤー
リオデジャネイロ パラリンピック
ダブルス/銅メダル



主催：品川区、ふくしまつり実行委員会 問い合わせ先：品川区福祉部障害者福祉課障害者福祉係 電話番号：03-5742-6707 FAX：03-3775-2000
品川区文化スポーツ振興部スポーツ推進課地域スポーツ推進係 電話番号：03-5742-6838 FAX：03-5742-6585

※会場に駐車場はありません。駐輪場にも限りがありますので、公共交通機関のご利用をお願いします。

ふくしま祭り2018 & 障害者スポーツチャレンジデー

スタンプラリー
実施!

会場内でスタンプを集めて、
景品をゲットしよう!
※数に限りがあります。

ステージイベント

障害者団体によるステージイベント
(発表会)を行い会場を盛り上げます!!

(予定内容) ハーモニカ演奏・歌と演奏・
リズム舞踊・三味線と歌・マジックと日本
舞踊・手話ダンス

体験できる競技

車いすテニス

「2バウンド以内に返球可能」など
ルールが一部変更されていますが、
基本的に国際テニス連盟(ITF)のル
ールに則って行われます。



・風船バレー
・ハンドアーチェリー
・ホッケー

ボッチャ

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれ
ぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当て
たりして、いかに近づけるかを競います。

車いすバスケットボール

下肢などに障がいのある選手が車いすに乗って戦うバスケ
ットボールで、巧みな車いす操作、素早いパスワークなど車
いす同士の激しい攻防が魅力です。



ブラインドサッカー

フットサルのルールをベースに5人で行います。フィール
ドプレイヤーはアイマスクを着用し、転がると音の出る
ボールでプレイします。



フライングディスク & 輪投げ & ストラックアウト

誰でもちょっとした時間で手軽に
体験できる競技を集めました。



グラウンド・ゴルフ

専用のクラブ等を使用して、ゴルフのようにボールを
クラブで打ち、ホールポストにホールインするまでの
打数を数えます。



ゴールボール

目隠しを着用した1チーム3名のプレーヤー同士が、コート内で鈴
入りボールを転がすように投球し合って味方のゴールを防御しなが
ら相手ゴールにボールを入れ得点を競い合います。

ドッジビー

ウレタンとナイロンでできたディスクを使うドッジボールのような
競技です。高い安全性を持ち、手軽に楽しめるスポーツです。

風船バレー

直径40cmの風船を使用するバレーボールで、誰でも楽しめるス
ポーツです。

ハンドアーチェリー

点数が表示されているボード(的)に先が磁石になっているピンを
あて、その合計得点を競うものです。

ホッケー<東京2020オリンピック品川区内開催競技>

専用のスティックを使って、ボールを打ってゴールに入れる競技です。

障害者団体の出店

うどん・カレーライス等の模擬店、
雑貨・日用品等のバザー、復興支
援物産品等の物販を行います!

パフォーマーの登場

開催時間中は、会場をビエロが、昼
はジャグリングで盛り上げます!



IBSA Blind Football World Grand Prix 2018

オリンピック・パラリンピック推進特別委員会資料
平成30年8月29日
文化スポーツ振興部
オリンピック・パラリンピック準備課

Blind Soccer

[ブラインドサッカー]

Magazine

WGP、語り継がれる 第1回大会。

グループリーグ、順位決定戦
全9試合詳報!

[インタビュー] ウルリッヒ・フィステラー氏
IBSAフットボール委員会チェアパーソン

日本代表選手名鑑2018

運河の街・天王洲アイルの“都市型まちおこし”

スポーツ&LIFE

LOTO

BIG

Contents

Blind Soccer Magazine 2018

- 3 [大会ダイジェスト]
品川に集いし猛者たちの競演
- 14 WGP2018全試合結果
- 15 [WGP2018最優秀選手インタビュー]
フロイラン・パディジャ選手 (アルゼンチン)
- 16 出場チーム紹介
- 18 ブラインドサッカー日本代表選手名鑑2018
- 22 IBSAフットボール委員会チェアパーソン
ウルリッヒ・フィステラー氏インタビュー
聞き手=松崎英吾 (JBFA事務局長)
ワールドグランプリで広がるブラサカの可能性
- 25 [Another Story]
試合を裁き、選手を育てる黒子役
ブラインドサッカー国際審判員・高木和男
- 26 **品川区は「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして「いつまでも」**
[WGPを支えたパートナー]
- 28 ①味の素
食からつくる、世界で勝つための「強いカラダ」
- 30 ②全日本空輸
2020とその先へ～ANAが目指す共生社会～
- 31 ③TANAKAホールディングス
メダルは「WGPのために」作られていた!
- 32 **運河の街・天王洲アイルの
“都市型まちおこし”**
- 34 [Another Story]
歓声のないグラウンドで線を描く仕事
グラウンドキーパー・武内賢一



2018年3月。私たち日本ブラインドサッカー協会は、新しい試みをスタートさせました。それはIBSA公認の国際大会ワールドグランプリを、品川区で3年にわたって開催するというものです。これは今まで存在しなかった大会を企画・運営するという画期的なものです。おかげさまで初回はアルゼンチンの優勝で無事に終えることができました。

この大会にはたくさんの意義がありますが、その中で特に大切なものは、2020年を目前に控えた日本代表のホームでの強化と、ブラインドサッカーの世界への普及・発展です。初回はあいにくの雨雪で皆さまに大変なご苦勞をおかけしましたが、それでも熱い声援に支えられての試合は、彼らにとって素晴らしい経験になったことと存じます。

そしてこの大会の成功は、支えてくださった方々の暖かいお志の賜物です。品川区さま、スポンサー企業さま、メディアの皆さま、そしてご来場いただき熱い応援をくださいましたサポーターの皆さまに、心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。そして来年も、どうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会
代表理事 釜本美佐子

[本誌で使用する略称について]

FW = フォワード、MF = ミッドフィールダー、DF = ディフェンダー、GK = ゴールキーパー
FK = フリーキック、CK = コーナーキック、PK = ペナルティーキック

IBSA BLIND FOOTBALL

WGP2018



IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ2018・大会ダイジェスト

品川に集いし猛者たちの競演

ブラインドサッカーの新しい国際大会「IBSAワールドグランプリ2018」が、
2年後にパラリンピックを控える東京で開催された。桜が咲いたかと思えば氷雨も降った5日間。
参加6カ国中、初代王者の栄冠に輝いたのは、果たしてどの国か――。



IBSA BLIND FOOTBALL
WGP 2018

タイトル: IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2018

英タイトル: IBSA Blind Football World Grand Prix 2018

日程: 2018年3月21日(水・祝)~3月25日(日) 会場: 品川区立天王洲公園(東京都) 競技クラス: BI(全盲)クラス

出場国: 6カ国 アルゼンチン/トルコ/日本/フランス/ロシア/イングランド

大会形式: 出場6カ国が3チーム・2グループにわかれ、1回戦総当たりのグループリーグを行う。

各グループ3位同士が5位決定戦、2位同士が3位決定戦、1位同士が決勝戦へ進出する。

[グループA] ゲーム1、3、5

Group A

3チーム同勝ち点の大混戦 日本は総得点数に泣く

どこが勝つのか予想もできない、実力拮抗のグループA。
日本は最高のスタートを切ったが、エースのアクシデントが響き……。

	日本	トルコ	イングランド	勝点	得点	失点	得失点差	順位
	—	× 0-2	○ 2-1	3	2	3	-1	3
	○ 2-0	—	× 1-4	3	3	4	-1	2
	× 1-2	○ 4-1	—	3	5	3	2	1

後半に入り一進一退の攻防が続く中、決勝のゴールを奪ったのはまたしても黒田だった。ゴール前でこぼれ球を拾い、振り向きざまに華麗にシュート。そのま

た。後半に入り一進一退の攻防が続く中、決勝のゴールを奪ったのはまたしても黒田だった。ゴール前でこぼれ球を拾い、振り向きざまに華麗にシュート。そのま



日本VSイングランド



GAME 1

ワールドグランプリ (WGP) 2018の開幕戦に登場した日本は、前半から川村怜と黒田智成が次々に好機を演出する。迎えた前半14分、黒田が低いシュートをゴール右下に決めて、日本が先制点を奪った。しかしその直後、イングランドのダニエル・イングリッシュがセンターライン手前からスリと抜け出し、強烈なシュートを決める。試合はすぐさま振り出しに戻された。



日本 2-1 イングランド

トルコ VS イングランド

GAME 3

日本 VS トルコ

GAME 5

今大会初陣のトルコに対し、2試合目となるイングランドが前半から攻勢を見せた。前半2分にダニエル・イングリッシュがトルコの選手を引き連れ

ながらもゴール左からシュートを決め、そのわずか4分後にはゴール右側から左隅へのゴールを決めた。さらに前半10分には、ゴール前の混戦でトルコが

引き分けて決勝進出が決まる日本に対し、初戦に敗れ何としても勝利が欲しいトルコの一戦。徐々に激しさを帯びていく展開の中、日本は得点源だった黒田智成が負傷退

場する手痛いアクシデント。後半に入ると、フィジカルに勝るトルコが日本を押し込む場面が増えていった。トルコペースとなっていた後半11分、ハサン・シャタ

ル。14分にはコーナーキックから再びシャタイが決めた。日本は得点を奪えず、勝ち点3を奪いながら得失点差と総得点でグループ3位に終わった。

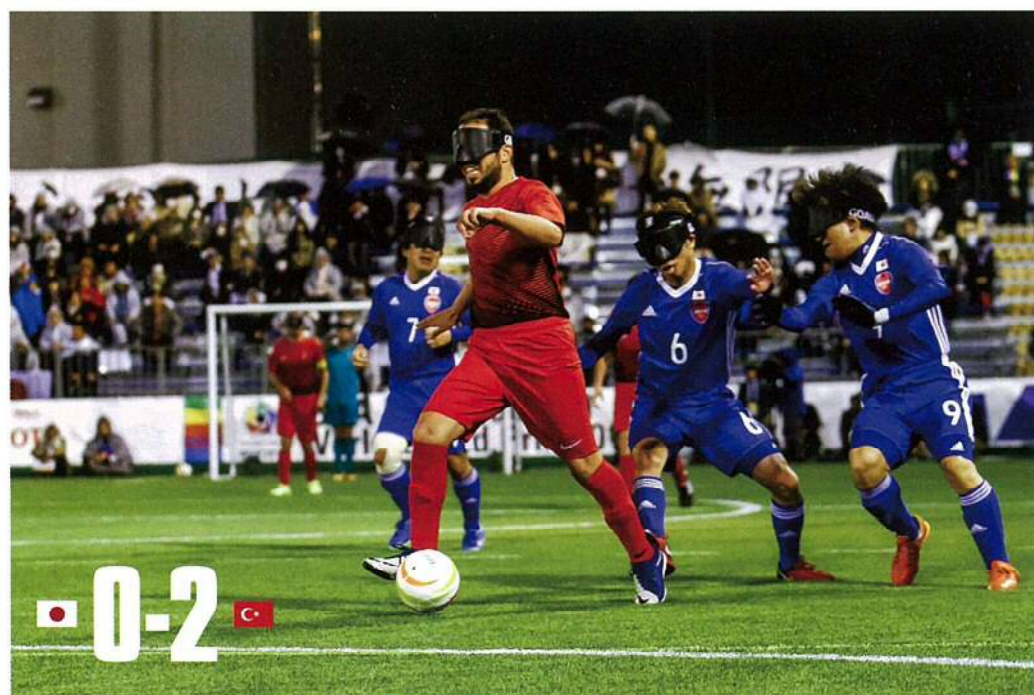


『キャプテン翼』のブラサカ版があった？

人気サッカー漫画『キャプテン翼』の世界観はそのままに、その作者・高橋陽一氏が原作を担当したブラサカのショートアニメがあるのをご存じだろうか？NHKのバラスポーツ普及プロジェクトの一つである「アニメ×バラ（アニメ×バラスポーツ）」は、音や声といった情報をもとに自分の位置や敵の動きをイメージしてプレーする選手たちの研ぎ澄まされた感覚、フィールド上の駆け引きや連携プレー、そして想像を超える競技の奥深さを描いた。ボールを浮かせた“無音”のロングパスをもらってそのままシュートする、ブラサカ版・必殺シュートが最大の見どころだ。NHKのホームページで視聴が可能。

オウンゴールを献上し、前半で3-0と点差が開いた。トルコは後半開始早々に、レジェップ・アイデニズがPKを決めるが、反撃はここまで。この後さらに1点を追加したイングランドが勝利した。

トルコペースとなっていた後半11分、ハサン・シャタイが力でゴール前で持ち込み先制ゴ



[グループB] ゲーム2、4、6

Group B

これがワールドクラスの破壊力 アルゼンチンが貫禄の首位通過

世界ランク2位の実力はいかほどか——。
アルゼンチンの多彩な攻撃バリエーションに観客も酔いしれた。

	アルゼンチン	ロシア	フランス	勝点	得点	失点	得失点差	順位
	—	○ 3-0	○ 5-0	6	8	0	8	1
	× 0-3	—	○ 4-1	3	4	4	0	2
	× 0-5	× 1-4	—	0	1	9	-8	3

試合開始早々、シュートのこぼれ球をロシアの選手が見失う中、すばやく反応したのはアルゼンチンのマキシミリアーノ・エスピノージョだった。巧みなボールコントロールでゴールに近づき、先制点を叩き込む。一方、反撃に出たいロシアもPKを得て絶好のチャンスを迎えるが、シュートはゴール右上に逸れてしまった。



— 3-0 —

アルゼンチン VS ロシア



GAME 2

試合開始早々、シュートのこぼれ球をロシアの選手が見失う中、すばやく

候補のアルゼンチンが、危なげない試合運びで快勝した。

フランス VS ロシア



GAME 4

アルゼンチン VS フランス



GAME 6

前半9分、フランスのアブデラヒム・マヤの放った強烈なシュートをGKがはじき、ゴール前でそのボールを拾ったアルノー・アヤが得点を決めてフラ

ンスが先制した。しかし、その後はロシアが息を吹き返す。前半14分にはアンドレイ・チホノフのシュートが相手ディフェンスに

当たってゴールに吸

い込まれ、17分にはデニス・エゴロフが巧みなステップからディフェンスを揺さぶり逆転シュートを決めた。

後半もロシアの勢いは衰えず、合わせて4点を奪ったロシアがフランスを圧倒した。

前の試合でハットトリックを達成したアルゼンチンのマキシミリアーノ・エスピノージョが好調を維持。前半12分に、ゴール正面からスーパースト

で続けに3失点を許してしまう。大会最多の5得点を奪うアルゼンチンの圧勝劇だった。



知られざるキーパーのもう一つの役割

シュートをセーブするのはゴールキーパー（GK）の最大の役割だが、目の見える人が務めるブラインドサッカーのGKの役割はそれだけではない。相手の攻撃の道筋を封じるべく、フィールドプレーヤーに細かく守備位置を指示したり、敵の動きを知らせたりする役割も担っているのだ。ただし、ピッチ上で声を出すことが許されるのは、エンドラインから12mのエリアにボールがある時のみ（攻撃側のエリアではガイドが、中盤では監督が伝える）。瞬時の判断には、GKとフィールドプレーヤーの信頼関係も大切。日々の積み重ねこそが好プレーを生むのだ。

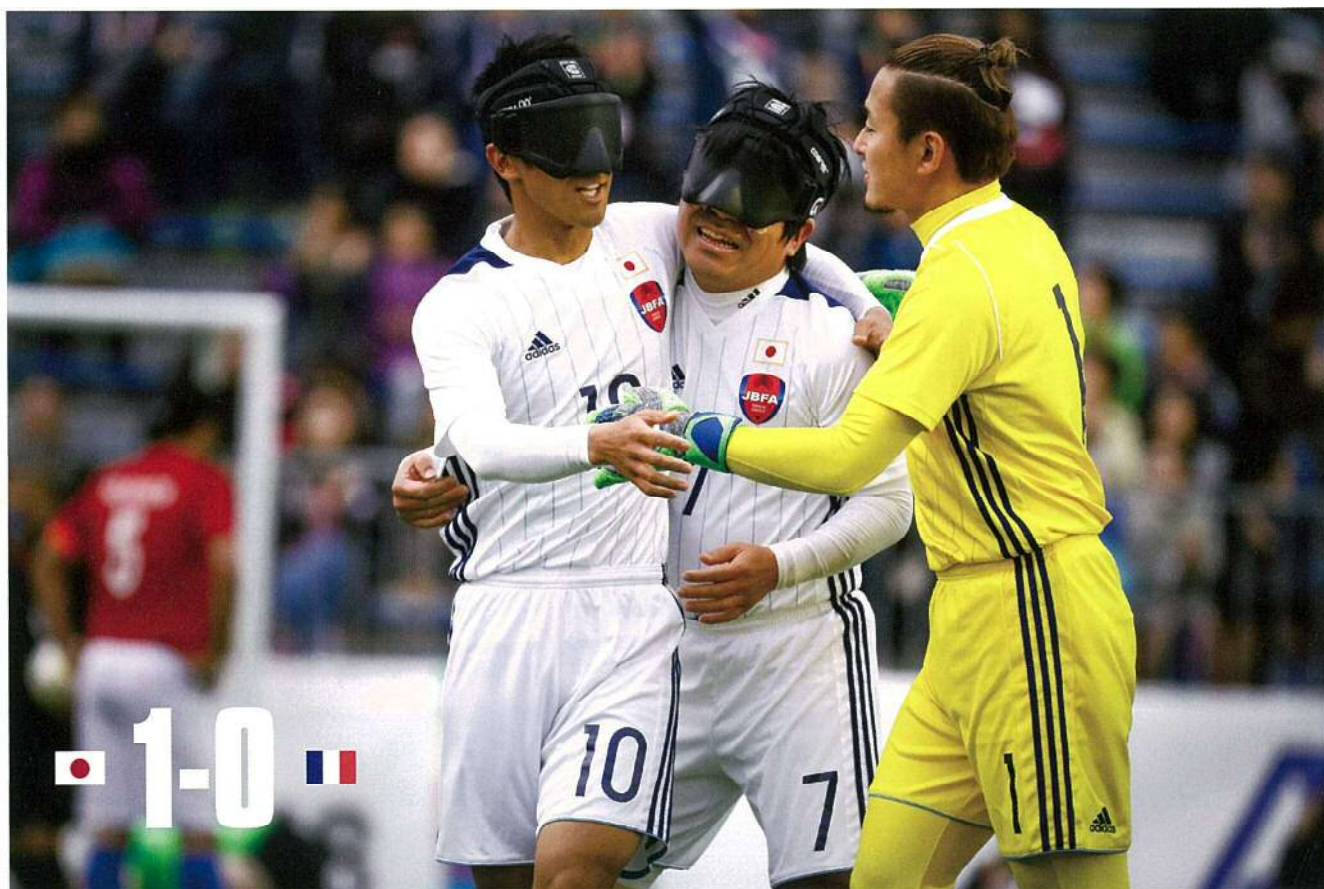
後半13分、チームの核となっているフロイラン・パディジャが、ボールが脚に吸い付くようなドリブルでフランスのディフェンス陣をかわして2点目を決めた。フランスは集中力が切れてしまったのか、残り2分間で立



[5位決定戦] 5th Place Match

積極果敢に攻めた日本が 意地の勝利

グループリーグ3位同士で行われた5位決定戦。どちらも最下位では終わりにたくない。
意地と意地がぶつかり合い、激しい攻防となった。



開催国として一つでも高い順位で大会を締めくりたい日本と、2連敗で終わったグループリーグでの鬱憤を晴らしたいフランスによる5位決定戦は、序盤から日本が攻める展開となった。

ここまでゴールのなかった主将の川村は、前日に「貪欲にゴールを狙い、勝つためのゴールを奪いに行く」と話していた通り、積極的にドリブルで攻め上がり、再三ゴールを狙う。この日先発出場で気合いの入る加藤も、セットプレーやドリブルから際どいシュートを放った。

そんな中で迎えた前半9分、川村がサイドフェンス際からフェイントで華麗に相手をかわした後、ドリブルで中央に切り込み、右足でシュート。「狙い通りだった」というゴールで日本は待望の先制点を挙げ、重苦しい雰囲気だった日本のベンチは一気に沸いた。

その後も、日本は川村を中心に積極的にシュートを撃つ展開が続く。最後尾にポジションを取る田中が攻め上がったと思えば、同じく守備エリアから駆け上がった佐々木がシュートを放ち、果敢な攻撃を見せて試合を優位に進める。

なかなか追加点を挙げられない日本は、前半残り6分で日向を投入したが、



前線にボールを運ぶも大きなフランス
ディフェンスの壁に阻まれ、前半を1
ー0のままで終えた。

続く後半も、川村や佐々木がシュー
トを放つが決め切ることができない。
一方のフランスも少ないチャンスをも
のにしようとカウンターを仕掛けるが、
ゴール前で待つアルノー・アヤにボー
ルをつなげられず、得点にはならなか
った。

その後、日本は加藤に代えて寺西を
入れるなど、文字通りの総力戦に。タ
イムアップの笛が鳴り1ー0で日本の
勝利が決まると、ピッチ上の川村は力
強くガッツポーズした。最終戦を勝利
で締めくくった日本に、会場からはあ
たかい拍手が送られた。

日本は得点こそ少なかったが、スピ

ードとパワーのあるヨーロッパ勢に対
し、守備面で一定の成果を上げた。試
合後、高田監督は次のように振り返っ
た。

「体が小さい日本の選手は、一人でボ
ールを奪いに行くのが難しい。プレス
に行く時は、他の選手にカバーに行か
せることが大事になる。そのため、選
手と選手の距離が離れすぎないように
ポジショニングにこだわった」

視線の先にあるのは2020年の東
京パラリンピック。グループリーグで
敗れても、全3試合を通して戦い方を
変えることはしなかったという。5位
という厳しい現実を突きつけられる結
果となったが、「2020年に向けて、
日本の現在地を確かめることができ
た」と前を向いた。



試合中、客席が 静かなのはなぜ？

転がると出るボールの音、ゴールの位置や距離な
どを伝える「仲間の声」だけでなく、相手の息づか
いや足音、ユニフォームがこすれる音にまで耳を澄
ませてプレーする選手たち。そんな選手たちのため
にも、プレー中はできるだけ静かに見守るのがブラサ
カの観戦マナーである。客席にはしばしば「SILENT
PLEASE」（プレー中はお静かに）のボードも掲げら
れる。惜しいシュートの後には大きなため息が漏れが
ちだが、それが次のチャンスを妨げることもあるので
注意が必要だ。拍手や声援を送りたくてもぐっとこら
えて、その分、ゴールの瞬間は大きな歓声を選手に
届けよう。



[3位決定戦]

3rd Place Match

エース投入で怒涛のトルコ ロシア懸命に守るも一歩及ばず

この大会を上位で終えるか、下位で終えるか。その分かれ目となる3位決定戦。
トルコの強力な攻撃陣をロシアはどう跳ね返すか。



グループAの最終戦で日本に勝利して3位決定戦にすべり込んだトルコと、グループBでアルゼンチンに完敗したもののフランスに4-1で快勝したロシアとの対戦となった。

試合序盤は両チームともボールが脚につかず、なかなかシュートにまで至らない。そんな中、最初にチャンスを迎えたのは、体格で上回り若い選手がいるロシアだった。

前半5分、GKのアントン・ラコヴレフのスローを受けたデニス・エゴロフがドリブルを仕掛けてトルコのアウルを誘い、絶好の位置でフリーキックを得た。先制点への期待が高まる中、エゴロフはワンドリブルから強烈なシュートを放つ。しかしトルコのデフエンスのブロックに阻まれ、得点することはできなかった。

トルコは前半6分、日本戦で2得点を挙げた好調のハサン・シャタイを投入。すると早速シャタイがシュートを放ち、攻撃のギアを上げる。

徐々にトルコにゴールの匂いが漂い始めた前半9分、エゴロフとの競り合いから抜け出したシャタイが左サイドから切り込んでグラウンダーのシュートを放つと、ヴァシリイ・ニコラエフの股の下を抜けてゴール左下に突き刺



さった。GKも反応できないコースに決まる見事なゴールで、トルコが先制した。

その後もトルコはゴール前で粘り強く守り、前線にボールを送ってチャンスを作り出す。前半11分にはイブラヒム・エゼムのパスを中央で受けたシャタイがトラップしてフリーでシュートを放つも、惜しくもボールは枠の外へ。前半13分にエムレ・アスランが、同13分にエムラー・エジャルが立て続けに鋭いシュートを放つが、ロシアのGKラコヴレフの好セーブに遭い、追加点とはならなかった。

なんとかトルコに反撃したいロシアだったが、前半16分にゴール前で得た

フリーキックでもエゴロフのシュートは枠に飛ばず、チャンスをものにすることができなかった。

後半もトルコのペースで試合が進む。それでもロシアの守備陣は気迫あふれるプレーでその攻撃を防ぎ続けた。先制点を決めたシャタイの突進を複数の選手で囲んで止め、さらにGKラコヴレフのフライングセーブも飛び出して追加点を許さない。

一方、トルコもフィジカルの強さと出足の速さを活かした守備でロシアの攻撃を防ぎ、両チームとも後半は得点を奪うことができなかった。

前半の1点を守り切ったトルコが1-0でロシアを下し、3位に輝いた。

フェンス際の攻防はブラサカの醍醐味!

ピッチ両サイドに設置されたサイドフェンスを巧みに利用したプレーが見られるのは、ブラインドサッカーならではの、腰の高さほどのサイドフェンスは、サイドラインの役目を果たすだけではない。選手がピッチの幅や向きを確認するために使われるほか、フェンスの跳ね返りを使ったパスやフェイントなど驚きのプレーを演出する。ディフェンス時にはフェンス際に相手を追い込んでボールを奪うなど、戦術的にも利用されている。サイドフェンスは攻守にわたりブラサカに欠かせない要素の一つとなっている。





PK戦を制したアルゼンチンが 初代王者に

下馬評通りの強さを見せてきたアルゼンチン。強靱なフィジカルと勝負強さで予選を勝ち抜いたイングランド。勝利の女神が最後に微笑んだのは――。

今大会、優勝候補の筆頭と目されていたアルゼンチンは、2試合で計8得点・無失点とグループBを危なげなく突破。対するイングランドは、初戦の日本戦に敗れたものの、トルコに大勝したことで得失点差による決勝進出を果たした。異なる形で決勝に進んだ両チームだが、試合は手に汗握る好ゲームとなった。

試合開始早々から気迫のこもったプレーを見せたのはイングランド。大きな身体でテクニクもあるダニエル・イングリッシュや、独特なリズムでドリブルを仕掛けるロイ・ターナムが、アルゼンチンゴールに迫る。

しかし、百戦錬磨のアルゼンチンは高い位置からプレスをかけてボールを奪取し、攻撃につなげる場面を増やしていく。前半8分には、こぼれ球からニコラス・ヴェリスがシュートするが、GK正面へ。その直後にも、アンヘル・デルドがボールを奪われた後にすぐに奪い返してシュートまで持ち込んだものの、枠を捉えることはできなかった。後半に入っても息をのむ展開が続く。

後半6分にヴェリスが強烈なシュートを放つと、後半16分にはイングランドのターナムが中央突破してゴールに迫るなど、まさに決勝戦にふさわしい激



マルティン・デモンテ監督(アルゼンチン)のコメント

「東京で開催される大会に参加でき、優勝できたことを光栄に思う。大会を運営されている皆さんにとっても感謝している。手ごわい相手ばかりだったので、優勝できてうれしい。日本とは対戦できなかったけれど、背番号10番の川村怜選手をはじめ、いい選手がいる。2020年の東京パラリンピックも、また皆さんと会えるのを楽しみにしています」

しい攻防が繰り広げられた。
しかし両チームとも得点が入らないまま後半が終了。勝負の行方はPK戦に委ねられた。
PK戦の先攻はイングランド。1人目のブランドン・コールマンはゴール左隅を狙って蹴り込むが、GKダリオ・レンシナが鋭く反応。ボールはポストに当たり、レンシナの好セーブとなった。
アルゼンチンの1人目は、得点ラン

キングトップの活躍を見せたマキシミリアーノ・エスピノーゾのPK。コールマンと同じ左側を狙ったシュートはゴールに吸い込まれ、アルゼンチンがリードを奪う。
イングランドの2人目はエスピノーゾと並び得点ランキング首位タイのイングリッシュだったが、放ったシュートはゴール右に逸れてしまい、まさかの失敗。イングランドは窮地に立たされる。

アルゼンチンの2人目のキッカーはヴェリス。ゴールが決まれば優勝が決まるとあって緊張感の漂う場面だったが、ヴェリスは冷静だった。GKが反応しにくいゴール右上に突き刺してPKを成功させると、アルゼンチンの選手たちは輪になって優勝を喜んだ。
決勝では得点こそ生まれなかったものの、大会を通じて他国を圧倒し続けたアルゼンチンが、文句なしのWGP初代チャンピオンに輝いた。



All Game Results

IBSAブラインドサッカーワールドグランプリ2018全試合結果

GAME6 (グループA) 3/23 19:15キックオフ

日本  0 $\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$ 2  トルコ

得点

ハサン・シャタイ (後半11分、17分)

GAME1 (グループA) 3/21 14:03キックオフ

日本  2 $\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$ 1  イングランド

得点

黒田智成 (前半14分、後半11分)

ダニエル・イングリッシュ (前半16分)

GAME7 (5位決定戦) 3/24 16:30キックオフ

日本  1 $\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$ 0  フランス

得点

川村怜 (前半9分)

GAME2 (グループB) 3/21 16:34キックオフ

アルゼンチン  3 $\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 2-0 \end{smallmatrix}$ 0  ロシア

得点

マキシミアノ・エスピノージョ (前半1分、後半14分、16分)

GAME8 (3位決定戦) 3/25 14:00キックオフ

トルコ  1 $\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$ 0  ロシア

得点

ハサン・シャタイ (前半9分)

GAME3 (グループA) 3/22 16:30キックオフ

トルコ  1 $\begin{smallmatrix} 0-3 \\ 1-1 \end{smallmatrix}$ 4  イングランド

得点

レジェップ・アイデニズ (前半4分)

ダニエル・イングリッシュ (前半2分、6分、後半18分)
Own Goal (前半10分)

GAME9 (決勝戦) 3/25 16:30キックオフ

イングランド  0 $\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$ 0  アルゼンチン

PK0-2

得点

GAME4 (グループB) 3/22 19:15キックオフ

フランス  1 $\begin{smallmatrix} 1-2 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$ 4  ロシア

得点

アルノー・アヤ (前半9分)

アンドレイ・チホノフ (前半14分)

デニス・エゴロフ (前半17分)

エヴゲーニイ・シェラーエフ (後半16分、19分)

最終順位

優勝:

 アルゼンチン

準優勝:

 イングランド

第3位:

 トルコ

第4位:

 ロシア

第5位:

● 日本

第6位:

 フランス

個人賞

MVP:

フロイラン・バディジャ (アルゼンチン)

MIP:

ダニエル・イングリッシュ (イングランド)

得点王:

マキシミアノ・エスピノージョ (アルゼンチン)、

ダニエル・イングリッシュ (イングランド) ※4得点

ベストゴールキーパー:

ダリオ・レンシナ (アルゼンチン)

TANAKA Great effort award:

ハサン・シャタイ (トルコ)

GAME5 (グループB) 3/23 16:30キックオフ

アルゼンチン  5 $\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 4-0 \end{smallmatrix}$ 0  フランス

得点

マキシミアノ・エスピノージョ (前半12分) フロイラン・バディジャ (後半13分) ニコラス・ヴェリス (後半18分) ダニエル・イトゥリア (後半18分) ルーカス・ロドリゲス (後半19分)

[WGP2018最優秀選手インタビュー]

フロイラン・パディジャ選手 (アルゼンチン)

トッププレイヤーが明かす、 トレーニング方法と ブラサカ哲学

攻守にわたる活躍が評価され、WGP2018の大会 MVP に選出されたアルゼンチンのフロイラン・パディジャ選手。世界のトッププレイヤーである彼は、普段どのような練習をしているのか。



——パディジャ選手は、ピッチのどこに自分がいるかを把握するのがとても上手ですね。

聴覚を刺激するトレーニングをし、「物体認知力」を高めているからだと思います。物体認知力というのは、言葉ではうまく説明できないのですが、物体がどこにあるかが分かって、そのおかげで方向がわかるような感覚。時間や空間を把握するのに欠かせません。

——練習のある日の過ごし方を教えてください。

12時に家を出て、13時30分に練習場に着きます。着替えた後、14時にはピッチに立っています。15分でアップを終えて、次の15分で筋力トレーニングをします。その後、ボールを使った練習があり、個人練習に続いてチームでの練習が行われます。ここでは主に、技術面と戦術面のトレーニングを行います。最後に約1時間の試合を行って、一日の練習が終わります。終わりの時間は17時から18時の間で、その後シャワーを浴びて、軽く食事をして家に帰ります。週の練習時間はおよそ15時間ほどです。

——試合中は、テクニックもさることながら、スタミナと精神力も際立っているように見えます。このあたりは、どのように鍛えていますか？

ピッチでのトレーニングに加えて、週2回、ジムでのトレーニングがあります。そこで体を鍛え、スタミナを強化していますが、精神面で私を強くしているのは、神への強い信仰心です。ピッチにいる私にエネルギーを与えてくれます。

——WGPにおいて、アルゼンチン代表チームの中で、パディジャ選手はどのような役割を果たしましたか？

私はチームの中でもポジティブな選手だと思います。ピッチ上では規律を保つことを常に考えて、チームメイトにこまめに声をかけることを心がけました。プレーの中では、攻撃を組み立てたり、自分からも参加したりしました。ディフェンス面では、危険なゾーンで相手にボールを持たせないように注意しました。

——39歳という年齢で体力のピークは過ぎているかもしれませんが、プレーヤーとしてまだまだ進化は可能ですか？

私には毎日学びがあります。たとえば戦略的なポジショニングをすることで、走りの量を減らしてもプレーの質を上げることができます。この他にも、冷静さや忍耐強さが、経験とともに育っていると感じています。

——2020年の東京パラリンピックでの目標を教えてください。

東京パラリンピックにはぜひ参加したいと思っています。代表に選ばれることを願っています。私は金メダルを勝ち取ることに以上、私がお世話になったすべての人々に恩返ししたい。オリンピックやパラリンピックは、スポーツ選手にとっては最高かつ、唯一無二の経験です。そこで得られる感動は、時として言葉で表現するのがとても難しいものです。目標をすべて達成したら、私は引退して、家族との時間を楽しみたいです。

FROILAN PADILLA / フロイラン・パディジャ 1979年2月22日生まれ。5歳でサッカーを始めるも、少年時代は弱視に悩まされる。18歳の時に完全に視力を失う。27歳の時にブラインドサッカーに出会い、2009年にアルゼンチン代表入り。2016年のリオパラリンピック銅メダルなど、アルゼンチンの国際大会での上位入りに貢献している。

Introduction of Team

出場チーム紹介



FRANCE

フランス

チーム全員で攻めるスタイルのフランス。どの選手も攻守ともに献身的でスピードがある。相手からボールを奪った後のつなぎが得意で、チャンスをものにできればゴールの可能性も高まる。ハキム・アレツキはドリブルからシュートに持ち込むのがうまく、相手に囲まれてもボールをキープできる選手。アルノー・アヤは、体格がよくゴールを果敢に狙う選手だ。



TURKEY

トルコ

欧州選手権得点王のハサン・シャタイを中心に、威力のあるシュートを撃ち、決定力が高い選手が多い。運動量が豊富で、長い足で執拗にボールを取りに行くのが特徴だ。特に1対1の場面では、しつこく相手に絡もうとする。得点に絡む機会の多いカフラマン・クルベトグルはボールさばきがうまく、ゴール近くでボールを持たせたくない選手である。



RUSSIA

ロシア

2017年、並み居る強豪を抑えて欧州選手権を制したロシアは、PK戦をものにすることも多い試合巧者。守りを固めるプレースタイルに見えるが、ボールを持てばボールを小刻みにまわしながら、粘り強くチャンスを待ち、一気に攻める。相手をかわしながら切り込む能力高いアンドレイ・チホノフ、ドリブルからゴールのチャンスを作るエヴゲーニイ・シェラーエフを筆頭に、それぞれの選手が果敢に攻める。

ENGLAND



イングランド

世界ランク 12 位ながら、2017 年の欧州選手権では 22 得点を挙げ、攻撃力と決定力を見せつけた欧州屈指の実力国。フィジカルの強い選手が揃い、ディフェンスでも体を張ったプレーが目立つ。中でも、ディフェンダーの位置を把握し、その間をすり抜けていく能力の高いロイ・ターナムは、ファールを誘うのもうまく、シュートに定評がある選手。また、ダニエル・イングリッシュも、ドリブル突破に加えゴールを量産できる選手だ。



ARGENTINA



アルゼンチン

アルゼンチンは 2017 年の南米選手権の覇者。世界最強のブラジルをうならせた堅い守備、得点を取りきれぬ高い攻撃力を併せ持ち、遠い位置からでもシュートを放つ高い技術力と正確性、そしてパワーもあるチーム。世界ナンバーワンディフェンダーの呼び声高い長身のフロイラン・パディージャ、アグレッシブなドリブルを展開するダニエル・イトゥリア、相手のボールを奪い細かいドリブルで攻めるマキシミリアーノ・エスピノージョなど役者が揃う。



JAPAN



日本

体格で上回る相手に対し全員でプレスをかけ、高い位置でボールを奪い、より攻撃的なサッカーを目指す日本。パスでサイドをかえながらドリブルでビルドアップし、ゴールに向かう。以前よりもシュートチャンスを作り出せるチームとなった。今後は個々のシュートの精度が向上すれば、世界の上位に食い込むチャンスは充分にある。キーマンは、高い身体能力とドリブルのスキルで相手を翻弄する川村怜、チーム最長キャリアを持ち高い得点能力を誇る黒田智成。



高田ジャパン・全選手にインタビュー ブラインドサッカー 日本代表選手名鑑2018

IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ2018を
終えた選手たちはもう、前を向いて進み始めている。
「東京2020」を最大目標に掲げる選手たちのそれぞれの想いに迫った。

文＝瀬長あすか



田中章仁

DF / Akihito TANAKA

たまハッサーズ
161cm/68kg 1978年5月8日生 静岡県出身

今大会も守備の要として後方でチームを支えた。

「自分たちの目指す“前の方から全員でプレスをかける”という守備はできたが、トルコ戦では2点を許してしまった。体の大きな相手に対してもフィジカルは負けないが、“ボールの認知”が課題」と、雨による急なピッチコンディションの変化に対応できなかったことを失点の要因に挙げた。

守備のカギとなる GK とのコミュニケーションについては、「突き詰めていくと、もっと深められるのではと思っている。長く一緒に戦っている（佐藤）大介はもちろん、（昨年代表入りした）榎本もすごく研究して声かけを工夫してくれている」と話し、さらなる成長を誓った。



黒田 智成

MF / Tomonari KURODA

たまハッサーズ 164cm/57kg 1978年10月9日生 熊本県出身

世界の舞台で華麗なゴールを魅せてきた頼れるエース。今大会も初戦でイングランドから値千金の先制弾を決めた。

「自分の役割は得点すること。みんなが体を張って前線にボールを運んでくれたので、とにかく思い切って蹴った」

雨中の初戦は「ボールが止まりやすかったり、足もとが滑ったりして、なかなか思うようなプレーができなかった」というものの、2点目は「相手のディフェ

ンスもこのコンディションでボールの音が聞こえにくいと思って、冷静にボールを動かし、ゴール前で相手をかわしてミートすることができた」と本人も納得の表情。

2戦目のトルコ戦は負傷退場したが、「世界トップのチーム相手に、練習で取り組んできたことをしっかり出せた」。イングランドに公式戦で初めて勝利したことは大きな自信になったという。



日向 賢

FW / Satoru HINATA

たまハッサーズ 163cm/62kg 1984年12月13日生 東京都出身

小柄ながら巧みなボールコントロールを武器に攻撃に参加する。途中出場した初戦では、「もう少し攻撃に絡みたかったけれど、意識して準備していたので、焦らずにプレーすることができた。これまでの国際大会に比べると、落ち着いてピッチに入れた」と手ごたえを感じていた。今後は準備への意識をさらに高めるつもりだ。

「今までは、いつも通りのプレーをするための準備に重点を置いてきたけれど、これからは『こういうシーンだったらこうしよう』と具体的なプレーについて落とし込んでイメージしていきたい」

次の国際大会では、ボールを前に運ぶだけでなく、「自分で攻撃を仕掛けて、シュートを打ち切るところまでチャレンジする」と新たな目標を掲げている。



川村 怜

FW / Ryo KAWAMURA

Avanzareつくば 169cm/62kg 1989年2月13日生 大阪府出身

世界に通用するストライカーを目指す日本のキャプテンは、高田監督が推し進める攻撃的なサッカーの中心にいる。

初戦を振り返りながら、「失点は反省しなければならないが、得点の後も受け身になりすぎず、最後まで前に出て相手の嫌なところを突いた。自分たちが主導権を握って試合を運ぶことができた」と、タフなゲームを制したことに胸を張った。

絶対に決勝戦に行くという強い思いで

臨んだトルコ戦は、気候やアクシデントでピッチ状況も刻々と変化。「適応するのに時間がかかった。自分がもっと冷静にプレーできれば……」と唇を噛んだ。

5位決定戦では、自身もゴールを奪取。「日本代表が取り組む攻撃力が発揮できている実感はある。決定力で差が出たと思うが、今やっていることを信じてプレーの精度を高めていきたい」と今後の目標を述べた。





加藤健人 MF / Kento KATO

埼玉T.Wings 165cm/60kg 1985年10月24日生 福島県出身

攻守の軸となる加藤は途中から試合に入ることも多く、常に万全の準備を求められる。

今大会は「昨年のアジア選手権で振るわなかった日本が、世界トップ相手にどれだけできるか」を確かめる機会。一戦一戦を大切に戦う中で印象的だったのは、黒田の負傷退場により本来より前線のポジションを務めることになったトルコ戦だった。

「試合前から途中出場のイメージをして準備していたが、変に前を意識しすぎたのか『攻めなきゃ』と気負いすぎた。チームは誰が出て同じパフォーマンスを出せることを目指しているのに、結果を出せなくて悔しい」。それでも「いいシュートを撃てた。これからは自分が試合を作っていけるような選手になりたい」と前を向いた。



寺西 一 DF / Hajime TERANISHI

松戸・乃木坂ユナイテッド 174cm/85kg 1990年5月23日生 広島県出身

存在感のある守備と、大きな声でチームを盛り立てるのが寺西だ。

トルコ戦の途中で出番が訪れると「やれることは限られている。自分の求められていることをやろう」と心に誓い、ピッチに入った。

「とにかく点を取られないということ。あとは相手選手が一人前線に残っていたので、その選手のチェックにしっかり行くのが自分の役割でした」

今大会の出場国は、日本が出場切符を手にしなかった世界選手権の出場国ばかり。体格の大きい相手との貴重な対戦の機会を「体格差まで感じている余裕はなかった。ピッチにいる時間は長く感じましたけど（笑）」と振り返る。

今後については、「もっと出番を多くもらえるように、守備で信頼される選手になりたい」とレベルアップを誓った。



佐々木ロベルト泉 MF / Robertoizumi SASAKI

Avanzareつくば 172cm/72kg 1978年5月2日生 サンパウロ(ブラジル)出身

フィジカルと当たりの強さはチーム随一。

守備に関して、「イングランドに1点を許した原因を見つけて修正しないといけない」と課題を口にしたものの、「自分自身は、後ろだけではなくて真ん中やトップ、どのポジションでもこなせるようになってきた」と声は明るい。

大会を振り返り、「全体的にはよく走れたし、シュートまで持っていくことが

できた。今回シュートはポストやサイドネットに阻まれることが多く得点にならなかったのは残念だが、入らない時は入らないもの。次は一人ひとりが実力を上げて臨まないといけない」と決意力不足を課題に挙げた。

怪我も絶えないが、「チームにとって、どのポジションでも私の強さが必要なので、この体で走れる限り走ります」と熟っぽく語った。



佐藤 大介

GK / Daisuke SATO

たまハッサーズ 170cm/72kg 1984年6月17日生 神奈川県出身

2009年のアジア選手権から日本のゴールを守るベテラン GK。

「選手はプレッシャーもある中で、やるべきことも多い。時には考え込んで消極的になることもある」

そう話す佐藤は初戦「とにかく後ろは自分を守るから、下がるんじゃなくて前に前に行け」と指示を出していた。

その結果、「あまり考えすぎず、コンパクトにやれたのがよかった」と勝因を

分析。前半に1点を許した場面は「守りに入ったことで気持ちが後ろ向きになり、コンパクトさが欠けてきたところがあった」というが、失点を気にしないようにと仲間を鼓舞した。

「相手がどうこうではなく、GKとして雰囲気作りも大事。今回は『前でボールを取るんだ』という共通の意思が見て取れた」と進化するチーム力を実感していた。



榎本 達也

GK / Tatsuya ENOMOTO

190cm/82kg 1979年3月16日生 東京都出身

身長 190cmの体格を活かし、FC 東京、横浜 F・マリノスなどでプレーした元 J リーガー。2017 年からブラインドサッカー日本代表に選出されている。

今大会では2戦目のトルコ戦に出場、正確なゴールスローで攻撃の起点となったが、2失点を許して敗れた。

「結果がすべて。負けた事実を受け入れるしかない。個人的にも2失点しており、間違いなく責任はある」

1失点目は混戦状態から、勢いのある

シュートが飛んできた。そこには振り抜いてくるタイミングが読めない難しさがあったようだ。

「日本の選手もぎりぎりボールに触るのか触らないのかというカオスの中、トルコの選手が振り抜いてくるイメージは頭に入っていたのだけど……。自分の姿勢もよくなかったし、ブラインドサッカー特有の難しさがあった」と経験不足を認めつつ、前進を誓った。



高田 敏志

COACH / Satoshi TAKADA

1967年4月21日生 兵庫県出身

2015年11月より、ブラインドサッカー日本代表の監督を務める。今大会では、前年のアジア選手権での反省からじっくりと守備から入り、攻撃に転じながらシュートチャンスをもくつくることをテーマに掲げた。

イングランド戦ではその戦術がはまり、黒田の2得点で勝利。しかし続くトルコ戦ではその黒田が負傷退場。試合にも敗れ、得失点差で決勝進出を逃した。シュートチャンスはつくれたものの、シュートの精度が足りなかったことを新たな課題に挙げた。

「勝てば盛り上がるし、負ければ厳しい声も上がる。サッカーとはそういうもの。2020年につなげるために結果も大事だが、それ以上に今はプロセス(内容)にこだわっていきたい」



中川 英治

GUIDE / Eiji NAKAGAWA

1974年7月6日生 北海道出身

大会を通じて、敵陣のゴール裏に立つガイドを務めた。「初めて使うピッチだったので、試合中はもちろん公式練習などでも、方向や距離感などの情報をいつも以上にしっかりと伝えるようにした」

今大会は決定力不足が課題となったが、フランス戦を振り返り「得点にはなっていないが、シュートまでのプロセスはよかった」と今後への手ごたえを感じ取っている。

「ガイドとしてはもちろん、コーチとしてタイプの異なる相手の分析をすることができたし、収穫の多い大会だった」

とはいえ、課題も多い。「技術的なところや戦術、それから僕らが取り組んでいる“認知、判断、実行する力”をもっと高めなければならない」と気を引き締めた。

IBSAフットボール委員会チェアパーソン
ウルリッヒ・フィステラー氏インタビュー

ワールドグランプリで 広がるブラサカの可能性

聞き手＝松崎英吾 (NPO法人日本ブラインドサッカー協会事務局長)

国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA) 公認の国際大会であるブラインドサッカーワールドグランプリは、2018年から2020年まで3年連続、東京で開催されることが決まっている。

第1回大会を品川区天王洲公園で終えたこの大会は、今後どのように発展していくのか。

IBSAフットボール委員会のチェアパーソン、ウルリッヒ・フィステラー氏に、日本ブラインドサッカー協会 (JBFA) の松崎英吾事務局長がインタビューした。



松崎 IBSAブラインドサッカーワールドグランプリ(WGP)が創設された背景について、ウルリッヒさんからあらためて説明していただけますでしょうか。

ウルリッヒ ブラインドサッカーの国際大会としては、すでに世界選手権やパラリンピックが4年に一度行われています。そうした中でWGPを創設した背景には、より大きな規模でブラインドサッカーの普及を促進させたいという思いがあったからです。たとえば今大会では、競技の発展を目的とした国際強化試合「デイベロPMENTゲームズ」が併催されました。ベルギーやインドといった世界ランク下位のチームには、国際大会に参加するチャンスがほとんどありません。競技上発展途上のチームにとっては、貴重な機会になったことでしょう。

松崎 WGPがより多くの国の人たちに、ブラインドサッカーの素晴らしさを知ってもらえかけにもなりますね。

ウルリッヒ 今はインターネット技術の進歩によって、世界中どこにいてもスポーツを見る環境が整っている時代

ですから、WGPが定着すれば、より多くの人々にブラインドサッカーを見てもらうことができるでしょう。

松崎 私たちもそのように考えていたので、今大会では全試合、YouTubeでライブストリーミング配信を行いました。

ウルリッヒ 素晴らしいことです。WGPはまだ大きな大会ではありませんが、継続して開催していくことで、いつかパラリンピックや世界選手権規模の大会になるはずです。世界中の視覚障がい者の方々にブラインドサッカーというスポーツがあることを知ってもらい、自分もプレーしてみたいと感じてもらえ。それが私の使命であり、WGPにはそれを実現に結びつける可能性があると信じています。

松崎 第1回の開催地に日本を選ばれた背景を教えてください。

ウルリッヒ 日本はブラインドサッカー界でトップを走る国の一つです。2年後にはここ東京でパラリンピックも開催され、ますます世界のブラインドサッカー界をリードする立場になるでしょう。あなたたちJBF Aも強い情熱を持って活動している。競技の普及、

代表の強化、育成、大会運営、ダイバシティの推進。日本ほど長年にわたる努力している国は他にありません。

松崎 私たちの活動を評価して褒めていただけるのは嬉しいのですが、インタビュする側なので少し気恥ずかしいです(笑)。

ウルリッヒ だって本当のことですから(笑)。私はブラインドサッカーの普及のために世界中を回って講演していますが、そこでよく、「私たちの国でブラインドサッカーを普及させるにはどうすればいいですか?」と聞かれます。私はいつもこう答えています。「日本のJBF Aを参考にしたいらいいよ」と。

松崎 身が引き締まる思いです。WGPは東京パラリンピックが開かれる2020年まで、今大会を含めて3回東京で開催されることが決まっています。IBSAは、この大会をどのように発展させていきたいとお考えですか?

ウルリッヒ こうした大会は一度走り出せば、あとはどんどん進んでいくだけです。私にはポジティブなイメージしかありません。今大会でファンの皆さんにはアルゼンチンの強さを知って

もらえましたし、これから2回、3回と続けていくことでますます注目を浴びていくことでしょう。ブラインドサッカーの普及や強化に十分な資金がない国にも参加してもらえよう、大会としてどれだけ支援していけるかが、2020年以降の課題だと思います。

ブラサカのボールが 世界中の人々をつなぐ

松崎 ブラインドサッカーというスポーツには、どのような可能性があると思いますか?

ウルリッヒ スポーツというものは、自分が今いる世界から飛び出し、さまざまな人と出会うための最善のツールです。私自身、プロサッカー選手としてそれを実感していましたし、ブラインドサッカーに携わるようになってからより強く感じるようになりました。ブラインドサッカーのボールを持っていけば、世界中のどこに行っても、「このボールは何?」「ブラインドサッカーってどうやるの?」と聞かれます。そこから感じるのは、ブラインドサッカーには世の中を変える力があるのだということ。私たちはこれから、視覚

障がい者と晴眼者が協力し合い、信頼関係を構築しながらチームを作っていく姿を、世界中の人々に示すことができます。

松崎 ブラインドサッカーのボールは転がると音が出る珍しいボールなので、興味を持たれやすいですね。外国にボールを持っていくだけでも、ブラインドサッカーが世界中に広がっていくような気がします。

ウルリッヒ 実際に今世界では、ブラインドサッカーをプレーする人が増えています。もしかしたら今後、ブラインドサッカーは必ずしも障がい者スポーツではなくなるかもしれませんよ。晴眼者がアイマスクを着けてプレーするということだってあります。

松崎 日本ではもう、そういう状況になっていきますよ。国内大会においては、晴眼者のプレーヤーの参加を認めています。

ウルリッヒ 本当ですか？ もうそんなことが起こっているんですか？

松崎 はい。視覚障がい者も晴眼者も一緒にプレーしていますよ。

ウルリッヒ それはすごい！ 本当に素晴らしいことですね！

松崎 みんなプレーすることをとても楽しんでいます。お互いに心を通わせ

ていますし、ピッチの上では誰も区別なくプレーしていますよ。

ウルリッヒ ブラインドサッカーというスポーツが、視覚障がい者も晴眼者も分け隔てなく、誰もがプレーできるスポーツだということを証明してくれていますね。

松崎 そこがブラインドサッカーの素晴らしいところだと思います。

ウルリッヒ 日本を訪れるのは今回が3回目になりますが、いつも感動させられます。ドイツ代表の監督として初めて来日した時は、日本のサポーターがドイツの国旗を持って応援してくれていました。あんな光景はそれまで見たことがありませんでした。今大会、日本は5位に甘んじましたが、予選では準優勝チームのイングランドを破りましたし、決勝に進出する可能性もありました。日本代表の選手、サポーター、そしてJBF Aのスタッフ、みんながそれに値するだけの努力を続けていると感じています。WGPはあと2回、ここ東京で開催されますから、もっと成長して、もっと良い成績を残せる可能性は十分にあると思います。

松崎 そうなるように全力を尽くします。最後に、日本のブラインドサッカーファンに向けてメッセージをお願いします。

します。

ウルリッヒ いつもブラインドサッカーをサポートしていただき、ありがとうございます。日本の皆さんは、自分のためだけではなく、他人のために行動することができます。こんな国は他に

見たことはありません。これから世界は、日本から多くのことを学ぶでしょう。日本の皆さんのサポートがあれば、ブラインドサッカーの未来はますますポジティブで明るいものになる。そう信じています。



ウルリッヒ・フィステラー 1951年生まれ、ドイツ・ベルリン出身。IBSA（国際視覚障害者スポーツ連盟）フットボール委員会チェアパーソン。プロサッカー選手としてドイツでプレーし、1972年ミュンヘンオリンピックのメンバーに選出される。現役引退後はオーストラリアへ渡り、盲学校の教師として勤務する傍ら、視覚障がい者向けのスポーツの普及に尽力した。2006年、ベルリンで開催されたIBSAブラインドサッカーワークショップに参加。その後、シュツットガルトにブラインドサッカーチームを創設し、2007年にドイツ代表（B1クラス）の監督に就任した。2011年7月、IBSAフットボール委員会に参画、現在に至る。

試合を裁き、選手を育てる黒子役

ブラインドサッカー国際審判員・NPO法人日本ブラインドサッカー協会審判部部长 高木和男

ブラインドサッカーには、視覚障がい者がプレーすることを前提とした多くのルールがある。審判員はそれだけ覚えることも多いが、他にも観客席からは気づきにくいさまざまな苦労があるようだ。

「選手はボールの音に向かって走ってきます。審判とぶつかるケースも珍しくない。審判はボールを持っていない選手の位置も常に把握していないといけません」

日本ブラインドサッカー協会・審判部長の高木和男は、2012年からブラサカの審判員として活動をしている。サッカーの審判員として20年、フットサル審判員としても10年のキャリアを有する。

「ブラサカにボランティアとしてかわり始めた頃は、みんなと手をつないでサイドフュンス役になったり、集客のためポップコーンを焼いたりしていました。でも自分は審判をやったほうが貢献できるんじゃないかな、と思いがブラサカの審判員になりました」

向上心は強かった。2013年にはアルゼンチンに飛び、日本人審判として初めて、コパ・アメリカ選手権でジャッジをした。

「スペイン語やポルトガル語は分かりませんよ。でもフールとかイエローカードとか、簡単な英語だけで選手は分かってくれます。言語を超えた共通のルールがあるというのは、スポーツの素晴らしいところだな、とあらためて思いました」

しかし現在、高木のように国際大会でのジャッジ経験を持つ日本人審判は多くない。高木はIBSAブラインドサッカーワールドグランプリ(WGP)2018には審判としては参加せず、後輩たちに経験の場を与えた。

「日本人審判も、パフォーマンスは向

上しています。体力も知識もある。弱いのは英語を介したコミュニケーション力。そこを自身の努力と経験でカバーしてもらえば、国際大会でもいいジャッジができると思います」

高木は「いい審判がいい選手を育てる」と言う。審判がルールをきちんと運用することで、選手たちはファウルと正当なプレーの区別が付くようになる。そこで初めて選手たちは思いきりプレーすることができ、チームも戦略を立てられるようになるのだ。日本代表の強化のためにも、日本人審判員の技術向上は重要な課題である。

審判部長としての高木の目標は、2020年の東京パラリンピックで活躍する日本人審判を一人でも多く育てること。

「その時私は60歳ですから、フィジカルは鍛えておかないといけませんね」高木自身も、パラリンピックの舞台に立つことを夢見る一人である。

たかぎ・かずお 1960年生まれ。勤務先のアクサ生命のブラインドサッカー支援開始後、ボランティアに参加。サッカー審判歴20年、フットサル審判歴10年。2012年よりブラサカの審判員に。



アウトオブプレー中の選手をエスコートするのも審判の役割



WGPでは、笛を吹く主審と第2審判、ベンチコントロールを担当する第3、第4審判、タイムキーパーとスコアラーの6人1組の体制を敷いた

品

年に、オリンピック・パラリンピックの関わりが始まったのは、2014年のこと。その前

品川区とブラインドサッカーの東京での開催が決定し、当初品川区内ではホッケー、ビーチバレーボール、ブラインドサッカー(5人制サッカー)、CPサッカー(脳性まひ者7人制サッ

カー)の4競技の開催が予定されていた。品川区では区長をトップとした推進体制を整えた。ブラインドサッカーについては、14



ブラサカの魅力を品川区から発信! 品川区は「誰でも」 「いつでも」「どこでも」、 そして「いつまでも」

2016年に日本ブラインドサッカー協会とパートナーシップ協定を結んだ品川区。WGP開催に至るまでにも、区ではさまざまな取り組みがあった。いち競技に対して、行政機関ができる支援とは? 品川区の歩みから、行政と競技団体との理想的な関係を探る。

年9月に「ブラインドサッカーフェスタ」をしながら中央公園で開催。15年からは、区内のスポーツ団体や公立の小・中学校を対象に、ブラインドサッカーの「出前体験教室」も始まった。品川区はなぜ、ブラインドサッカーの認知度向上に力を入れてきたのか。前オリンピック・パラリンピック準備課長である小川陽子さんは、次のように話す。

「晴眼者と視覚障がい者が一緒にピッチに立ち、プレーする競技の在り方に魅力を感じたからです。区民の方々にも知っていただき、競技と一緒に盛り上げていきたいと感じました」

品川区で障がい者スポーツへの取り組みが始まったのは、国際障害者年の1981年。その後、2007年には「品川区文化芸術・スポーツのまちづくり条例」が制定された。この条例をきっかけに、スポーツに関して「誰でも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」という4つの理念が誕生した。

「障がいの有無や年齢でカテゴライズせずスポーツを通じて、本人らしさを活かして共生していこうというのが、品川区のビジョンです」(オリンピック・パラリンピック準備課長の辻亜紀さん)

大会関係者、協力者らが品川区を表敬訪問

WGPが無事に終了した1カ月後の2018年4月27日、ブラインドサッカー日本代表の川村怜主将や高田敏志監督のほか、日本ブラインドサッカー協会の釜本美佐子代表理事、松崎英吾事務局長が品川区を表敬訪問した。今大会のために地元企業により結成された天王洲アイルブラサカサポートプロジェクト実行委員会の井上慎一副会长と事務局の前田俊寛氏も出席し、品川区から大会への貢献に対し感謝状が贈呈された。

品川区は本大会に向けて、会場となった天王洲公園の芝の全面張り替

えを決行。高田監督は、大会初日の悪天候に触れ、「あの芝だったからこそ、大雨でもボールが浮かずに、試合を続けることができた」と感謝を述べた。釜本代表理事は、冷たい雨にさらされながら試合の行方を見守ってくれた観客が多かったことに触れ、「試合の後に交わした握手の温かさは忘れません」と大会の様子を思い返した。

川村主将は、初のWGPを日本で開催できたことに対する喜びを述べ、「強豪国と試合をすることが強化につながります。次は優勝を目指したい」と雪辱を誓った。



互いに感謝を述べるとともに、次回に向けて情報交換を行った

会当日には、選手入場の際の旗手やエスコートキッズとして、子どもたちの活躍も目立った。

三つ目は、地元企業が自発的に応援団として集結し、参加してくれたこと。大会開催前から会場周辺にのぼりを立て、期間中も、さまざまな形で協力し、大会を盛り上げてくれた。一方で「課題も残

った」と小川さんは洩らす。

「ブラインドサッカーをまだ知らない区民に、いかにその魅力を伝えていくかが今後の課題です。それと同時に、区外から来られるブラサカファンの方に、品川区の魅力を知ってもらいたい。観戦とセットで区の文化財や水族館などを楽しんでもらったり、食事を楽しんでもらったりして、何度でも品川区を訪れたいと思ってもらえるような仕掛けをつくらたいですね」

来年の3月も品川区でWGPが開催されることになっている。品川区からブラサカの魅力を発信すべく、すでに来年の大会に向けて走り始めている。

練習場所の問題が解消

パラリンピックのブラインドサッカーの会場は、16年に、品川区から江東区へ変更が決まった。しかし、区は引き続き競技の応援に取り組んだ。品川区立全校で体験「スポ育」プログラムを実施することとなった。

品川区と日本ブラインドサッカー協会は、さまざまな事業をより推進しやすくするため、さらに連携を深め、16年4月にパートナーシップ協定を締結

した。品川区が競技団体と協定を結ぶのは初の試みで、同協会としても、行政機関と協定を結ぶのは初めてだった。調印式では競技の現状等、さまざまな情報交換が行われ、その中で「代表選手の練習会場確保に困っている」という課題が持ち上がった。

「区として協力できないかと考え、その年の夏から、荏原第六中学校の校庭を夜間練習会場として提供することになりました」（前出・小川さん）

その後、東日本リーグ2016の開催や、「スポ育」実施などを経て、集

大成となったのが、今回のWGPだ。小川さんは「おおむね大成功だった」と評価を述べた。理由は3つあるという。

一つ目は、区民が国際レベルの選手を間近に見ることができたこと。

「試合を観戦した多くの区民が、ブラインドサッカーの選手に対して、『カッコいい』というイメージを抱いたはずです。そうしたことが、パラリンピックの機運醸成につながっていくのではないかと考えます」（小川さん）

二つ目は、区民が参加する機会を多く得られたこと。大

ブラサカ応援キャラクター「やたたま」って？

品川区内の高校生がデザインした、区のブラサカ応援キャラクター「やたたま」。WGPにも登場し、外国選手からも親しまれていた。今後もぬいぐるみやキーホルダーのほか、手ぬぐい、文房具などさまざまなグッズを作成し、区民に親しんでもらえるよう展開していく予定だという。



大会中、会場にたびたび現れた「やたたま」



味の素(株) オリンピック・パラリンピック推進室長の片上崇さん(左)とビクトリープロジェクトグループマネージャーの一番ヶ瀬和彦さん(右)

味

の素がブラインドサッカー日本代表への支援を始めたきっかけは、2015年のブラインドサッカーアジア選手権だった。同社でオリンピック・パラリンピック推進室長を務める片上崇さんは、両者の出会いをこう振り返る。

「私たちがネーミングライツ契約を結んでいる味の素スタジアムや併設のアミノバイタルフィールドで、毎年ブラ

[WGPを支えたパートナー①]

味の素

食からつくる、世界で勝つための「強いカラダ」

“Eat Well, Live Well.”

誰もが一度は耳にしたことがあるこのフレーズは、世界中の人々に「おいしく食べて健康づくり」を届けることを目指している味の素のコーポレートメッセージだ。その志は、アスリートたちの「強いカラダづくり」にも活かされていた。

インドサッカーの日本選手権が開催されると聞いた時、これは運命的な出会いだと感じました」

味の素は日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラリンピック委員会(JPC)とパートナーシップ契約を結び、日本代表選手団を「食とアミノ酸」によってコンディショニングをサポートする「ビクトリープロジェクト」を展開している。栄養管理のアドバイスや合宿時のメニュー開発、海外遠征先での食事提供など、その活動内容は多岐にわたる。

先述の通り、ブラインドサッカー日本代表に対しては15年から支援を開始している。ビクトリープロジェクトグループマネージャーの一番ヶ瀬和彦さんは、最近の選手の体にも変化が見られるようになったと目を細める。

「私が担当してから約2年が経ちますが、徐々に選手の体が締まってきたように見えます。高田敏志監督がよく、世界で勝つためには海外の選手とぶつかっても倒れない、倒れたとしてもす



フィギュアスケートの羽生結弦選手をはじめ、多くのアスリートも実践する「勝ち飯」の献立

トップアスリートたちの『勝ち飯』を食卓に

味の素はJOC、JPCとともに、オリンピック日本代表選手団および候補選手を「食とアミノ酸」でコンディショニングをサポートする「ピクトリープロジェクト」を続けている。栄養管理のアドバイス、合宿時のメニュー開発、海外遠征先での食事提供など、その内容は多岐にわたる。そんなトップアスリートへの支援で培ったノウハウから生まれた栄養プログラムが、「勝ち飯」だ。その対象はアスリートだけではなく、すべ

での「がんばっている人たち」。どんな人でも、目標をかなえるには、健康な体づくりとコンディショニングが大事。「勝ち飯」では、バランスのよい三度の食事と補食でそれを無理なく実現できるよう、さまざまな献立を提案している。

トップアスリートたちのように、強い体と最高のコンディショニングで目標に向かいたい人は、味の素のホームページで「勝ち飯レシピ」をチェック！

ぐに立ち上げられる強い体が必要だと話していますが、まさに戦う体になってきたと感じています」

実際の現場では、選手に対して製品だけでなく、「情報」も一緒に提供するという。

「たとえば練習時、合宿時の勉強会で、この製品がどんな機能を持っているのか、どのタイミングで飲むのがいいのかといった情報を提供しています。さらには選手一人ひとりとコミュニケーションを取る中で、選手が感じている課題の聞き取りもしています。食が進まない場合には、『汁物を献立に取り入れながらうま味の機能を使って胃腸を元気にしましょう』といったアドバイスします。そしてその場ですぐに実践してもらっています」

実際、IBSAブラインドサッカーワールドグランプリ(WGP)では、日本代表選手のフィジカルの進化が垣間見られた。小柄な日本人選手が、外国人選手に伍してボールを奪い合うシーンは幾度となくあった。

味の素がアスリートをサポートをすることの意味を、前出の片上さんはこう話す。

「味の素には『日本人の栄養状態を改善したい』という創業の志が受け継が

れています。大事なものは、『何を食べるか』ではなく、『何のために食べるか』。『Eat Well』目的のために食べる』ことによって、『Live Well』目的をかなえる』を実現するお手伝いをしたい。それこそが、味の素がスポーツを支援する原点の想いです」

そして「共食」の喜びにも言及する。「今の時代、人はサブリだけでも生きていけるのかもしれませんが。でもやはり、家族や友人と一緒に食事はおいしいですね。食を通じて生まれるコミュニケーションは、幸せにつながっていく。それもまた『Eat Well, Live Well』の形です」

味の素では今、こうした想いを日本だけでなく世界中に広げようとしている

言語を超えたグローバルロゴが誕生！

味の素は2017年10月、グループ共通のブランドロゴとして、「味の素グループグローバルブランドロゴ(Ajinomoto Group Global Brand Logo)」を導入した。世界中の生活者に馴染みやすい「言語を超えた」デザインで、2020年度までのグローバル食品企業トップ10クラス入りを目指す。

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO



Eat Well, Live Well.

Aj
AJINOMOTO

旧コーポレートブランドロゴ(上)と、新しい味の素グループグローバルブランドロゴ(下)。太字化することでロゴの視認性とパワーを向上。世界中の人々に親しまれるデザインを追求した

る。味の素グループ共通のブランドロゴ『味の素グループグローバルブランドロゴ』を導入したのもその一環だ。「世界中で愛されるブランドづくりも、今回WGP2018の大会スポンサーを務めた理由の一つです。大会を通じて新しいブランドロゴを世界中の人に認知してもらうと同時に、『Eat Well, Live Well』を知ってもらう、とても良い機会になりました」

ブラインドサッカー日本代表が世界の頂点を目指して戦っているように、味の素もまた、世界を舞台にその活動を広げている。お互いが目指す夢に向かって、二人三脚での挑戦は始まったばかりだ。



多くのANA社員がワークショップを通じてブラインドサッカーを体験し、興味を抱くようになった

「東」

京2020パラリンピック
競技大会もスタンドで応援
するつもりです」

スポーツ観戦が趣味だというANA
ホールディングスの久田和紀子さん
(コーポレートコミュニケーション室)
の観戦リストには、ブラインドサッカ
ーも含まれている。もともと仕事がか
っかけてこの競技を知ったが、今では

「WGPを支えたパートナー②」

全日本空輸

2020とその先へ ～ANAが目指す共生社会～

WGPの大会スポンサーを務めた全日本空輸(ANA)からは、
多くのグループ社員がボランティアとして駆けつけた。
その経験から得たものとは？

のパートナー企業として大会をサポートしたくボランティアを募集し、24名のグループ社員から応募がありました」
ANAグループでは常時、社内のイントラネットでボランティア募集情報を発信しており、興味を持った社員は、イントラ上で直接応募できるようになっている。

「私たちはこれまで、協会様と共同で全国の事業所でブラインドサッカー体験会を行い、昨年度約750名が参加をしました。ブラインドサッカーを知り、その素晴らしさを体感したことが、今回のボランティア参加につながったと思います」

ANAは東京2020大会のオフィシャルエアラインパートナーとして、「すべてのひとに優しい空」を実現し、活力ある共生社会をリードすることを目指しているが、今大会へのボランティア参加が、その考えへの理解を深める機会にもなったという。

「これからも協会様とともに、グループ社員の心のバリアフリーや、『混ざり合う社会』の実現に向けたムーブメントを社内外で起こしていきたいと考えています」

社会の多様化は、障がいの有無にとどまらない。2020年、訪日外国人

の数は4000万に達する見込みだ。久田さんは日本を訪れる人々に、「日本に来て良かった」と感じてもらいたいと考えている。困っている人がいれば自然と手を差し伸べて助け合えるような社会づくりに貢献したい。それは久田さんの願いであるとともに、ANAグループが目指す社会像でもある。

「社員一人ひとりが機内や空港でもてなしをするのはもちろんですが、街中やあらゆる日常生活のシーンでも、一人の人間として自分に何ができるのかを自発的に考えて、当たり前に行動に移していきたいと思います」



社員にボランティアを呼びかけたANAホールディングスの久田和紀子さん

決

勝戦の興奮冷めやらぬピッチで、優勝トロフィーを頭上に高々と掲げるアルゼンチンの選手。2018年3月25日、IBSAブラインドサッカーワールドグランプリ（WGP）の表彰式で選手たちに手渡された優勝カップやメダル、盾などを製作・提供したのは、TANAKAホールディングス（以下、田中貴金属グループ）だ。

同社は、12年から日本障がい者スポーツ協会（JPSA）のオフィシャルパートナーとして、障がい者スポーツの支援を開始した。日本ブラインドサッカー協会とは、17年4月にパートナーシップ契約を締結。ブラインドサッカー女子日本代表のスポンサー企業でもある。

東京マラソンをはじめ、これまでさ



WGP特製のメダルには点字加工が施されている

さまざまなスポーツ大会の記念品を製作してきた同社だが、CSR・広報本部の須田久美さんによれば、「いち競技大会のために、メダルや盾など一式をオリジナルで製作するのは今回が初めて」だという。また、視障がい者が受け取る記念品ということもあり、今までのノウハウだけでは解決できない部分があった。

製作で特に苦労したのが、点字加工だ。今回製作した記念品には、すべて点字加工が施されている。点字を打つ際には、「ここから数字になる」などの記号を入れる決まりがあるのだが……。

「製作を始めた当初は知識がなく、文字をそのまま点字に置き換えればいいと考えていました。しかしメダルやトロフィーの幅に点字が収まらず、何度も調整を重ねました」（須田さん）

今大会における田中貴金属グループの取り組みとして、もう一つ特筆すべき点が「TANAKA Great effort award」という個人賞の設置だ。表彰式では、同社の田苗明社長からトルコのハサ

【WGPを支えたパートナー③】

TANAKA ホールディングス メダルは「WGPのために」 作られていた！

WGPの表彰式で、選手に手渡されたトロフィーやメダル。記念品の製作に携わった田中貴金属グループに、企業の強みを活かした協賛の在り方を尋ねた。

ン・シヤタイ選手に、クリスタル製のトロフィーが手渡された。

「選考は大会側にお任せしましたが、得点数にかかわらず、チームを支える動きを見せた選手にこの賞を贈ってほしいと伝えていました」（須田さん）

田中貴金属グループは今後、障がい者スポーツ推進室を中心に、「パラスポーツの“自分ごと化”に向けて、さまざまな施策を打ち出していく」（C

表彰式で優勝トロフィーを掲げるWGP初代王者のアルゼンチン選手たち



SR・広報本部の関谷祐子さん）という。その第一弾として、日本代表選手を招いて講演会を行った。観戦経験のある社員とない社員による座談会なども企画されている。

「田中貴金属グループの強みは、1885年の創業時から培ってきた貴金属加工の技術。今後も貴金属のプロとして、技術を活かしたユニークな取り組みを続けていきたいです」（須田さん）

東 京・品川区の天王洲アイル
 といえば、倉庫街と運河の
 織りなす雰囲気の魅力の街
 として、近年人気の高まっているエリ
 アだ。オフィス街でありながら、休日
 にはアートギャラリーやカフェなどで
 ゆっくりと過ごす人々が多く見受けら
 れる。

ドラマのロケなどにも使われる「天王洲ふれあい橋」をバックに。左から中野貴輔さん（寺田倉庫）、今井一さん（三信倉庫）、大竹広明さん（三信倉庫）、鳥井由佳さん（阪急阪神ホテルズ）、井上慎一さん（阪急阪神ホテルズ）、前田俊寛さん（中川特殊鋼）



「東京の玄関口」をPR 運河の街・天王洲アイルの “都市型まちおこし”

WGPを盛り上げたのは、選手や大会関係者たちだけではない。
 開催地の天王洲アイルでは、このエリアで働く人々が中心となり、
 大会をサポートするプロジェクトチームが結成された。
 運河の街・天王洲アイルが示したブラサカと地域の新たな可能性。
 プロジェクトに関わった方たちに振り返ってもらった。

委員は10名ほどだが、ボランティアとして関わった人を含めると総勢は百名以上。事務を務めた前田俊寛さんは、WGPにこんな期待を抱いていた。

「天王洲アイルは、羽田空港や新幹線停車駅の品川駅へのアクセスが便利で、東京の表玄関とも言えるような立地にあります。」

お台場や都心の商業地にも近い。東京観光の宿泊地として利便性が高い街なので、この大

会をきっかけに多くの人に天王洲に来てもらいたいという思いがありました」

前田さんは当初、同協議会が毎年開催している夏祭りのように「出店を出せば人が集まる」と考えていた。しかしすぐに根本的な問題に気づかされた。委員長の大竹広明さんが明かす。

「私は以前から、テレビなどでブラ

インドサッカーの存在を知っていました。しかしこの地区で独自にアンケートを取った結果、多くの方がこの競技自体を知らなかったのです」

「ひょっとすると大変なことを引き受けてしまったかもしれない——」

天王洲初の国際スポーツイベントへのメンバーの期待は徐々に不安へと変わっていったが、悩んでいる時間はない。委員会は活動の柱を「告知」に定め、一気に動き始めた。天王洲地区のこの“結束力”を、ボランティアとして参加した鳥井由佳さんが解説する。

「天王洲ほど、企業間のつながりが強い地域はなかなかないと思います。顔なじみ同士、一緒にイベントなどを開催してきた経験があるので、準備期間は短かくてもみんなが集まれば何かできるだろう、とは思っていました」

委員会ではまず、天王洲アイル内外の企業から協賛金を募った。出資企業の社名入りののぼりを立てたほか、東京モノレール羽田空港線と東京臨海高速鉄道りんかい線の駅構内にポスターを貼ってもらうなどした。

発信していく街にしたい

サッカー経験者の今井一さんは、ブラインドサッカーの試合を見るのは今回が初めてだった。

「日本戦には本当にたくさんの方が来て驚きました。印象に残ったチームはアルゼンチン。初観戦でもプレーの質が高いことがよく分かりました」

そんな今井さんは、スタンドの外では子ども向け遊具の案内係をしていた。委員会では、のぼりやポスターなど告知につながるものから予算を付けたが、協賛金が順調に集まったことから、イベントを盛り上げる仕掛けづくりも実現したのだ。他にもコミュニティポールの設置や、記念マフラー、



象のふわふわ遊具は子どもたちに大人気だった

ピンバッジの製作を実施。若手注目バンド「POLU」やチアリーダー、品川区の伝統芸能である大井権現太鼓を呼んで、スタンドを大いに盛り上げた。大会前、249本ののぼりを仲間とともに立てて回った井上慎一さんも、1年目としての成果に満足していた。「モノレールや高速からも、のぼりが見えるように設置しました。『あそこでもかやっているな』と思わせただけでもまずはよかった。いろいろなことを発信する街でありたいですね」

今回の経験で「天王洲でもスポーツの国際大会ができるのか」と自信を得た中野貴輔さんは、早くも次回への課題を見つけていた。

「品川区の小学校でブラインドサッカーの体験授業が行われていることもあって、天王洲アイルの外からやって来る親子連れもいました。告知活動を品川区の他の地域にも広げれば、もっと人を集められると思いました」

来年に向けて、天王洲アイルの人々は自信を深めている。

「ブラサカの認知度は今、急速に高まっている。来年はもっと多くの人が来るでしょうね」（大竹さん）

多様な顔を持つ運河の街に、ブラサカという新たな魅力が加わった。

未来の電柱広告？ パナソニックの新型サイネージが WGPで初お披露目！



天王洲アイル駅周辺で、道案内に試合速報に大活躍したパナソニックの「ストリートサイネージ（カバートイプ）」

天王洲アイル駅周辺に突如現れた、人目を引く青いボックス。小さな電光掲示板に映し出されているのは、近くで行われているIBSAワールドグランプリ（WGP）の試合速報だ。

実はこれ、配電地上機器にカバーをかけたパナソニックの新型電子看板。その名も「ストリートサイネージ（カバートイプ）」だ。事業推進担当の渋谷哲さんが、開発経緯を次のように語る。

「無電柱化地区の配電地上機器を活用した電子看板を作れないかということ、開発が始まりました。通常、道路

上には掲示物を設置できませんが、品川区の協力で実証実験が実現しました」

何の変哲もない青いカバーに、さまざまな技術が駆使されている。文字情報の送受信には、省電力で広い範囲に電波の届く無線通信技術、LPWAが

離れたところまで届きました」（上杉さん）

WGPでは英文でも情報発信した。立ち止まって見ている外国人も喜んでいただろう。大会初日は雨が降ったが、防水面でも問題はなかった。

「課題は見た目。着脱のしやすさなどを考えて今回はカバーのサイズをゆとりめにつくりましたが、紙のポスターの見やすさを考えるとジャストフィットさせるのがベスト」（上杉さん）

このストリートサイネージは一時利用に限られるが、用途はさまざま。前出の渋谷さんは、「大型イベントや祭りなどの際の案内板として、災害時の情報共有手段として活用してもらいたい」と期待を述べる。すでに天王洲地区の団体、そして全国の自治体から問い合わせが来ているようだ。

採用された。試合中、スタンドからテキスト情報をリアルタイムで送信していたのは、開発担当の上杉充さんだ。「LPWAは送信できる情報量こそ少ないものの、消費電力が小さくて済みます。搭載したソーラーパネルと蓄電池で、全く問題ありませんでした。また電波も、300メートル

歓声のないグラウンドで線を描く仕事 グラウンドキーパー・武内賢一

午前8時、朝の静寂に包まれた品川区立天王洲公園で、黙々と作業をする人たちがいた。緑色の芝生の上に次々と描きだされる白い線。それはブラインドサッカーのフィールドラインだ。使われる塗料は、自分たちで独自に配合したものだという。

「天然芝なのか、人工芝なのか。芝の長さはどのくらいか。人工芝ならどのくらい擦り切れているか。芝の状況によりペイントの乗り具合が大きく変わる。同じ白色でも大会ごとに塗料を一から配合しているんです」

グラウンドキーパーの武内賢一がブラインドサッカーのライン引きを初めて担当したのは2014年、国立代々木競技場で開催された世界選手権での

ことだった。以来、ブラサカとのつながりを深め、IBSAブラインドサッカーワールドグランプリ2018でもライン引きを担当した。

武内は、アメリカンフットボールの「スーパードール」のグラウンドキーパーも務める池田省治氏率いるグラウンド整備会社、オフィスショウの一員だ。同社は全国のスタジアムや練習場における芝生の整備や管理、校庭や園庭の緑化を生業とする「芝生のプロ集団」として知られる。

ライン引きの仕事に関しても妥協はしない。ただ「正確な線を引けばいい」というものではないのだ。

「芝生の種類や育成状態、コンディションは会場ごとに異なります。芝生を傷めないように、塗料の配合や塗り方には常に気をつかう必要がある。一つひとつの作業が試合の価値、大会の価値を高めていくことにつながると思いながら仕事をしています」

WGPの大会3日目を迎えたこの日は、雨の影響で消えかけ

ていたラインを引き直すための修正作業があった。武内は芝の感触を確かめながら、ゆっくりと丁寧に器具を押し進める。そしてラインを一本引いては、あらゆる角度からその見栄えを確認していた。

「どこからでもきれいに見えていることが大事なんです」

手作業でも、彼の引く線がぶれることはない。直線やカーブを美しく描く秘訣はあるのかと尋ねると、「やっぱり経験ですかね」とはにこんだ。

「ピッチで選手たちがいいプレーをして、観客の皆さんが喜んでいっているのを見ると、少しは大会の盛り上がりやに寄与できたのかな、と感じますね」

感動を生むすべてのプレーは、彼らの仕事の上に成り立っている。武内たちは今日もどこかのグラウンドに一番乗りし、数時間後にやって来る選手や観客の姿を思い浮かべながら、最高のフィールドづくりに汗を流している。

(敬称略)

たけうち けんいち 1969年生まれ。グラウンドキーパー歴17年。2001年にオフィスショウに入社。誰でも走り回れる芝生広場を全国に広げることが夢。



ディンプルマーカーという器具を使い、手押しで線を描いていく



この日は3人組での作業。開場時刻に間に合わせるにはチームワークも大切だ



ラインを描くだけでなく、前に引かれていた線を消す作業もある



Blind Soccer *Magazine*

発行 特定非営利活動法人
日本ブラインドサッカー協会

編集 香川 誠

写真 鯉部春雄(オフィシャル)
塩田亮吾(オフィシャル)

デザイン 勝浦悠介(丸山製作所)

IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2018
IBSA Blind Football World Grand Prix 2018

日程：2018年3月21日(水・祝)～3月25日(日)

会場：品川区立天王洲公園

主催：国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA: International Blind Sports Federation) / 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 (JBFA: Japan Blind Football Association)

特別共催：品川区

共催：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

後援：厚生労働省 / スポーツ庁 / 公益財団法人日本サッカー協会 / 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 / 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 / 公益財団法人東京都サッカー協会 / 朝日新聞社

競技クラス：B1(全盲)クラス

出場国：6カ国 アルゼンチン / トルコ / 日本 / フランス / ロシア / イングランド

大会スポンサー：味の素株式会社 / 全日本空輸株式会社

カテゴリースポンサー：TANAKAホールディングス株式会社(式典・セレモニー) / 天王洲アイルプラザリポートプロジェクト実行委員会(ホームタウン)

技術協力：パナソニック株式会社

Eat Well, Live Well.

Aj
AJINOMOTO.

ANA
Inspiration of JAPAN



<http://www.b-soccer.jp/>

ブラインドサッカーの未来を一緒につくろう
ブラサカみらいパートナー募集!

詳しくはこちら
<https://join.b-soccer.jp/>

